

質問者氏名	質問・ご意見	回 答																																																																															
<p>一関市長 佐藤 善仁様</p>	<p>岩手県における医師確保の状況等について 県全体と両磐保健医療圏の目標医師配置数、現状の医師配置数、来年度の医師配置の見通しをお示しいただきたい。 併せて、来年度の両磐保健医療圏内の県立病院（花泉センターを含む）の診療科の見通しをお示しいただきたい。</p>	<p>(医療局)</p> <p>現在策定中の岩手県医師確保計画（素案）では、目標医師数を県全体では2,884人、両磐保健医療圏では230人としており、直近の調査である令和2年度における医師数は、県全体では2,509人、両磐保健医療圏では211人となっています。</p> <p>表1 両磐保健医療圏及び岩手県全体の目標医師数</p> <table border="1" data-bbox="1346 445 2116 600"> <thead> <tr> <th></th> <th>現在医師数 (H28)</th> <th>現在医師数 (R2)</th> <th>目標医師数 (R8)</th> <th>確保すべき医師数 (R8-R2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>両磐</td> <td>204</td> <td>211</td> <td>230</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>県全体</td> <td>2,458</td> <td>2,509</td> <td>2,884</td> <td>375</td> </tr> </tbody> </table> <p>※目標医師数=令和8年度に医師偏在指標に基づく順位が全国の二次医療圏毎に全国の低位33.3%を上回るために必要な県内二次医療圏の合計医師数</p> <p>なお、両磐保健医療圏の県立病院の常勤医師数は、令和2年度から5年度にかけて、15名増加し、98人となっており、着実に医師確保に向けた取組を推進しているところです。引き続き、医師確保計画の目標達成に向けて、取組を継続していきます。</p> <p>表2 両磐保健医療圏の県立病院常勤医師数の動向</p> <table border="1" data-bbox="1346 943 2116 1235"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R5-R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>磐井</td> <td>54</td> <td>64</td> <td>59</td> <td>64</td> <td>67</td> <td>71</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>花泉</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>千厩</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>-1</td> </tr> <tr> <td>大東</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>南光</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>13</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>両磐計</td> <td>77</td> <td>87</td> <td>83</td> <td>89</td> <td>93</td> <td>98</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>県全体計</td> <td>567</td> <td>588</td> <td>598</td> <td>620</td> <td>643</td> <td>660</td> <td>62</td> </tr> </tbody> </table> <p>※上記医師数は各年度3月31日現在。令和5年度は令和5年12月1日現在。 ※休職者（病休・育休）も含む。</p> <p>なお、県立病院における来年度の医師配置は、現在調整中ですが、診療科について、大幅な変更は予定しておりません。</p>		現在医師数 (H28)	現在医師数 (R2)	目標医師数 (R8)	確保すべき医師数 (R8-R2)	両磐	204	211	230	19	県全体	2,458	2,509	2,884	375		H28	R1	R2	R3	R4	R5	R5-R2	磐井	54	64	59	64	67	71	12	花泉	2	2	2	2	2	2	0	千厩	7	9	10	10	10	9	-1	大東	3	3	3	3	3	3	0	南光	11	9	9	10	11	13	4	両磐計	77	87	83	89	93	98	15	県全体計	567	588	598	620	643	660	62
	現在医師数 (H28)	現在医師数 (R2)	目標医師数 (R8)	確保すべき医師数 (R8-R2)																																																																													
両磐	204	211	230	19																																																																													
県全体	2,458	2,509	2,884	375																																																																													
	H28	R1	R2	R3	R4	R5	R5-R2																																																																										
磐井	54	64	59	64	67	71	12																																																																										
花泉	2	2	2	2	2	2	0																																																																										
千厩	7	9	10	10	10	9	-1																																																																										
大東	3	3	3	3	3	3	0																																																																										
南光	11	9	9	10	11	13	4																																																																										
両磐計	77	87	83	89	93	98	15																																																																										
県全体計	567	588	598	620	643	660	62																																																																										

質問者氏名	質問・ご意見	回 答
千厩町婦人団体協議会 館澤 敏子様	<p>コロナ感染症の対応等に医療関係者の皆様には本当にありがとうございました。令和5年5月から5類扱いになったとはいえやはり気をつけて過ごさなければならない日々が続いています。</p> <p>これからもよろしく願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革について</li> </ul> <p>令和3年度の運営協議会の資料の中で示された令和6年4月から適応される「時間外労働の上限規制」に関連して実際の診療はどのようになるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クリニカルパスとは。</li> </ul> <p>最近知った言葉ですが「クリニカルパス」について実際の診療の場でどのように運用されているのか。</p>	<p>(磐井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの医師は上限規制の960時間以内の超勤で診療しており、1860時間以内のB申請医師は5人ですが、それらの医師も1860時間以内で診療ができており、実際の診療は、変わらないと思います。</li> <li>・現在入院患者に対するクリニカルパス使用率65%であり、半分以上の症例がクリニカルパスを使用して入院から退院までの診療をしております。そこにはいつ何時に何を使用するかが書かれており、またいつ検査をするか等も決まっており、医師の指示を待つことなくスピーディーにことを運んでおります。さらに、毎日目標が達成されたかのアウトカム評価をすることになっており、クリニカルパスを使用することにより、医療の質と経営の質が上がっております</li> </ul>

質問者氏名	質問・ご意見	回 答
平泉町婦人団体協議会 山田 一子様	<p>病院を利用する皆様からの声をいただく機会はどのように設けているか。</p> <p>声が届いたときの対応はどのように行われているか。</p> <p>声の内容は感謝のことば、苦情もあると思います。苦情の対応はどのようにされていますか。</p>	<p>(磐井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内8ヶ所にふれあいポストを設けており、利用する皆さんからの声をいただいております。ふれあいポストにつきましては週2回収し、該当部署と共有し回答を作成します。回答(案)につきましては月曜日に開催されている管理会議(院内上層部の会議)で確認し院内掲示をしております。</li> <li>苦情・ご意見についての院内の対応としましては該当部署にフィードバックし、今後どのような対応をするか検討しております。</li> <li>また、ふれあいポストの他に院内には患者支援相談窓口を設置しており常時、苦情対応・相談に対応しております。</li> <li>また院内コンシェルジェ制度を今年度より始めており、困っ</li> </ul>

		ていそうな人に積極的にお声がけすることで、苦情等は激減しております。
--	--	------------------------------------

質問者氏名	質問・ご意見	回 答
南光病院家族会会長 小山 峯雄様	<p>1) 先日、精神保健に関わる施設の代表者会議の中で、病院の退院促進で退院して施設利用しているが、本人自身の最低の日常生活の支援が必要な人が多いので病院入院中に指導してもらいたいとの要望が有りました。病院の対応についてお聞きしたい。</p> <p>又、過去に入院患者が退院後就労につなげる支援（実習？）等が有ったと聞いておりますが病院として今後そのような支援対応を再開についてお聞きしたい。</p> <p>2) 「退院促進」についてお聞きしたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者（患者）の病状があまり改善されなくても3ヶ月過ぎると退院となるのでしょうか。（家族は、退院に不本意だが退院せざるを得ない？）</li> <li>（医師と家族との話し合いが少ない様に感じますが？）</li> <li>・家族も高齢となり退院後の当事者を受け入れる社会資源が少なく家族は困っている。（行政への要望ですかね？）</li> </ul>	<p>（南光）</p> <p>1) 入院当初から症状の改善・日常生活援助を行い、早期退院に向けて取り組んでおります。障がいの程度は個々に異なり不可逆的な部分もありますので、落ち着いて生活できることが重要です。施設等への退院は、病院との情報共有はもとより、患者の意思確認、利用体験等を通じて退院支援を行っていますので、患者を中心とした支援方法について不備がないか検討します。</p> <p>新型コロナウイルスへの対応前は、退院支援に向けて援助する病棟があり IADL（手段的日常生活動作）への対応・支援を行ってまいりました。現在対応困難例については、個別に対応しております。</p> <p>就労支援は、デイケア利用者の希望を伺いデイケアプログラムとして行っています。具体的に事業所見学、ハローワーク利用説明、チャレンジドジャパンへの講師依頼を行っております。（デイケアは、退院後活動の場として月～金の 9:30～15:30 まで実施）</p> <p>2) 急性期治療病棟、精神科救急病棟からの退院は、3か月以内の退院目標として治療を行い、症状の改善・環境調整等を行い退院していただいております。期間内に必要があれば家族と主治医面談、関係者会議、介護連携等カンファレンスなど本人の希望、ご家族の意向も含めた退院支援を実施しております。</p> <p>現在、精神科治療において地域で支える治療にシフトしております。デイケアや訪問看護・地域でのサービス等で自宅や施</p>

		<p>設等での患者支援を継続して行っております。</p> <p>社会資源不足とのご意見ありがとうございます。5080 問題を含めて、病院から発信していただきたいと思ひます。</p>
--	--	--

質問者氏名	質問・ご意見	回 答
<p>県議会議員 神崎 浩之様</p>	<p>1) 一関病院、西城病院の体制変更により、地域おける救急や入院、外来にどう影響が出てくると思ひますか。 それに対する市・町・県行政、ならびに県立病院や医師会の対応は？</p> <p>2) 年末年始の、県病および当番医における救急の対応はどうだったか？うち、救急ではないケースはどのくらいあったか。 それに対し、行政は、市民へどう働きかけていくのか。</p> <p>3) 介護人材（介護士、ケアマネージャー）不足について、医療機関として、どう危機感を感じているか。</p>	<p>（磐井）</p> <p>1) 既に出ている地域や当院への影響として、二次救急輪番病院の減少による他病院の負担増加が挙げられます。</p> <p>また今後は、紹介患者数の減少による医業収益の減少や、回復期・後方支援の連携病院が減ることに伴って特に看取りや社会的入院等の患者さんの急性期からの転院・逆紹介調整が困難になってくるものと推測されます。</p> <p>当院の対策としては、紹介患者確保のため連携施設訪問や病院案内冊子の充実、返書率の向上などに取り組んでいるところです。さらに、転院先確保のため地域連携クリニカルパス参入病院の開拓や対象地域の拡大等も必要と考えております。</p> <p>2) 年末年始期間の外来患者数の県立病院の取りまとめをみますと磐井病院が 279 人、千厩病院が 139 人となっております。磐井病院については昨年度より 47 人増となっております。来院方法別にみますと救急車が 51 人と 18%ほどとなっております。</p> <p>3) 県立病院では、現時点で介護人材の採用を行っていないことから、一般的に言われている人材の不足について病院現場で実感することは難しいのではないかとと思ひます。</p> <p>しかし、退院後の紹介先として介護施設等は重要と考えており、人材の不足のため紹介が難しくなれば、患者の紹介に支障</p>

を来すこともありうると思っており、そのようなことにならないようにしていただきたいと思います。

(一関市)

1) 救急については、磐井病院から回答があったとおりと考えます。かかりつけ患者の外来対応については、患者に混乱が生じないように最大限配慮されていると伺っております。また、休日・夜間の当番医（一次救急医療機関）の減少による影響が考えられますが、今回、西城病院では、外来医療、在宅医療、訪問看護、訪問介護が一体となった事業体制を整え、当地域での医療提供を継続されることから、今後の運営を注視していきたいと思っております。

2) 年末年始の休日当番医の受診者数は、西地区（12/30～1/3×3医療機関）が884人、東地区（12/29～1/3×1医療機関）が281人、計1,165人となっております。受診者数は昨年度より583人増となっております。

市では、市民に対し「より重症な人が休日や夜間に県立病院等の救急医療機関を優先的に受診できるよう、通常の診療時間内にかかりつけ医を受診すること」「やむなく休日や夜間に医療機関を受診する際は当番医を利用すること」など医療機関の受診の仕方を見直すように普及啓発を行っています。

(医師会)

1) 西城病院と一関病院の体制については、これまでの一連の動きは両病院とも当地域にとって中核病院であるだけにその影響は大きいと考えています。西城病院の診療科移転に伴い今後の一関病院との診療体制の充実と在宅医療の体制の強化による新たな中核病院としての機能充実、発展を期待したいと存じます。

2) 年末年始の休日当番医につきましてはコロナとインフルエン

		<p>ザの両方で平時より当番医はかなりの負担であったと思います。一次救急の受診者数が多かったため、二次救急との棲み分けはできていたと考えます。</p> <p>救急でないケース、という点に関して把握は特にしておりませんが、年末年始期間であるため、ある程度の軽症も診ざるをえなかった状況と考えています。</p>
--	--	---